

605A

NF・政策フォーカスETF（愛称）

NOMURA

NEXT FUNDS

NEXT FUNDS 日本株政策フォーカス上場投信

月次レポート

[追加型投信／国内／株式／ETF]

2026年8月31日

■ ファンドの目的

●わが国の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

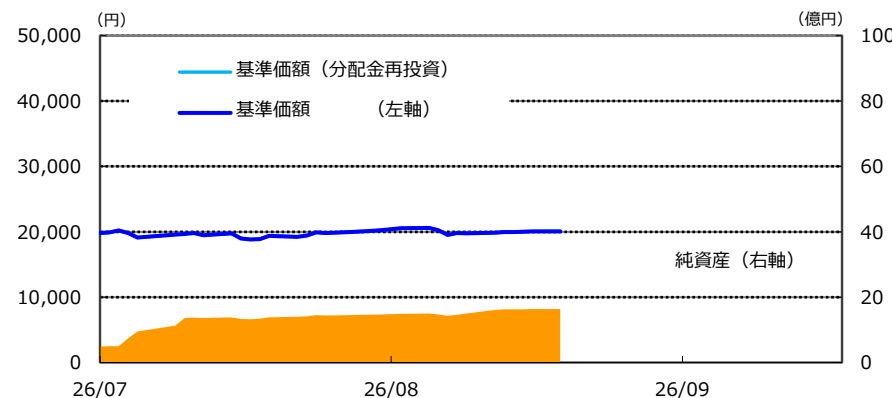
■ 運用方針

- 銘柄選定にあたっては、流動性の高い銘柄の中から、政府方針に則ったテーマを選定し、銘柄選択を行ないます。
- ポートフォリオの構築にあたっては、テーマ関連事業売上高、テーマの分散等を勘案して組入銘柄と投資比率を決定します。
- テーマは適宜見直しを行ない、それに伴い組入銘柄の変更を行ないます。

■ 運用実績

運用実績の推移

(日次)



騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
基準価額（分配金再投資）	3.5%	-	-	-	-	1.3%

(設定来＝2026年7月13日以降)

・基準価額、基準価額（分配金再投資）の推移は、100口当たりで表示しております。

・基準価額（分配金再投資）の推移および騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

・騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

■ 資産内容

業種別配分	純資産比
電気機器	28.3%
機械	12.9%
情報・通信業	9.8%
化学	9.7%
建設業	8.1%
その他の業種	30.3%
合計	99.1%

テーマ別配分	純資産比
AI・デジタル技術	37.4%
エネルギー・資源開発	28.4%
インフラ・国土強靱化	15.8%
エンタメ	11.8%
バイオエコノミー	5.7%
合計	99.1%

・テーマは適宜見直しを行なうため、分類が変更になる場合があります。

資産構成	純資産比
株式	99.1%
現金、その他資産	0.9%
(指数先物)	-

ポートフォリオ特性値	純資産比
配当利回り（年率）	1.9%
・配当利回りは、組入銘柄の配当利回り（課税前、実績配当ベース）を組入比率で加重平均して算出しております。	

組入上位10銘柄	業種	純資産比
6758 ソニーグループ	電気機器	2.5%
8035 東京エレクトロン	電気機器	2.1%
6861 キーエンス	電気機器	2.0%
9984 ソフトバンクグループ	情報・通信業	2.0%
6857 アドバンテス	電気機器	1.9%
7974 任天堂	その他製品	1.8%
6981 村田製作所	電気機器	1.7%
8031 三井物産	卸売業	1.6%
4063 信越化学工業	化学	1.5%
7011 三菱重工業	機械	1.5%
合計		18.5%

・業種は東証33業種分類による。

・追加設定の計上タイミングとファンドが購入する投資対象資産の計上タイミングのずれにより、純資産に対する投資対象資産の合計比率が100%を超える場合があります。

当資料のご利用にあたっては、後記の「ご注意事項等」を必ずご覧ください。

組入銘柄数： 150 銘柄

8月の投資環境

○ 8月の国内株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が月間で3.82%上昇し、月末に4,156.29ポイントとなりました。

○ 8月の国内株式市場は上昇しました。月初は、日米協調介入による円高懸念から下落して始まりましたが、その後は良好な2026年4-6月期決算を受けて大きく上昇しました。米雇用統計の悪化などから米国の利上げ観測が一時的に後退したことも投資家心理を支え、TOPIXは終値で史上最高値を更新しました。中旬に入ると、中東情勢の悪化に加え世界的な金利上昇が重しとなり、株価の上昇幅の大きかった半導体関連銘柄を中心に市場が大きく下落する場面も見られましたが、その後は過度な警戒感が後退し、内需株など割安感のある銘柄を中心に反発しました。下旬にかけては、日銀の早期利上げ観測を背景に、銀行、保険、証券など金融株を中心に幅広く買いが広がり、月間では上昇しました。

○ 東証33業種で見ると、主要企業の好決算を受けたサービス業など23業種が上昇しました。一方で、相次ぐ自然災害の発生による収益圧迫が懸念された保険業など10業種が下落しました。

8月の運用経過

（運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。）

○ 当ファンドの月間騰落率は+3.52%となりました。

○ 業種別に見ると、非鉄金属、情報・通信業などが上昇したことがプラスに寄与する一方、倉庫・運輸関連業、建設業が下落したことがマイナスに影響しました。

今後の運用方針（2026年8月31日 現在）

（以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。）

○ 今後の投資環境

日本経済は、緩やかな成長を続けています。4-6月期の実質GDP（国内総生産）成長率は前期比年率+1.1%となり、3四半期連続のプラス成長となりました。政府による給食費負担軽減や製薬会社による特許権の海外譲渡といった特殊要因が消費や設備投資など内需の減少要因となっていますが、全体としてはグローバルなAI（人工知能）関連需要の拡大がプラスに貢献しています。8月の東京都都区消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年同月比+1.8%となり前月の同+1.7%から上昇しました。7月の企業物価指数は前年同月比+7.2%、輸入物価指数は同+29.1%となり、依然として高止まりしています。家計や企業のインフレ期待も上昇傾向にあり、日銀は物価の上振れリスクへの警戒感を高めている模様です。7月の金融政策決定会合における「主な意見」では、機動的な利上げを支持する見解が目立ちました。当社では2026年9月、12月、2027年6月に利上げを決定するとみており、2026年の実質GDP成長率は前年比+0.8%と予想しています。

○ 引き続き政府方針に則ったテーマ関連銘柄へ投資を行ないます。銘柄選定にあたってはテーマ関連売上高比率の高い銘柄を中心に投資を行ない、テーマは適宜見直しを行ないます。

○ ベンチマークについて

当運用は、政府方針に則ったテーマ関連銘柄へ投資を行ない、テーマの恩恵を中長期で捉えることで信託財産の成長を図ることを目的とした運用です。そのためベンチマークについては設定しておりません。

ETFの円滑な流通及び公正な価格形成について

当社は、本ETFの立会市場における十分な売買機会を提供することを目的として、本ETFを株式会社東京証券取引所が運営するETFマーケットメイク制度Version 2.0の対象銘柄として登録しています。加えて、本ETFの指定参加者およびマーケットメイカーへのサポートを通じて、市場における安定した流動性の確保に努めています。流動性に関連する各指標の状況については、以下のリンクをご確認ください。

ETFの注文板の厚さやビッド・オファーのスプレッド

<https://www.jpx.co.jp/equities/products/etfs/quoting-data/index.html>

ETFの市場価格と一口当たり純資産額の乖離の状況

<https://nextfunds.jp/lineup/605A/#tab-history>

市場外取引における執行状況

<https://off-exchange.jp/offexchange/top>

マーケットメイカーのサインアップの状況

<https://www.jpx.co.jp/equities/products/etfs/market-making/index.html>

■ 投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等を主な投資対象としますので、組入株式の価格の下落、組入株式の発行会社の倒産や財務状況等の悪化、その他の市場要因等の影響により、基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、市場取引価格または基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。投資信託説明書は、当社インターネットホームページでご覧いただけます。

■ 当ファンドに係る手数料・費用について

直接的にご負担いただく費用

〈取引所を通して取引をされる場合に直接ご負担いただく費用〉

- 売買手数料 市場を通して売買される場合、販売会社が独自に定める金額がかかります。

〈設定・換金される場合に直接ご負担いただく費用〉

- 購入時手数料 ファンドの追加設定のお申込みの際には、販売会社が独自に定める額をご負担いただきます。
 - その他の費用 購入価額は、基準価額に100.1%以内（2026年7月13日現在100.03%）の率を乗じた価額となります。したがって、購入時には、基準価額に0.1%以内（2026年7月13日現在0.03%）の率を乗じて得た額を1口あたりに換算して、購入する口数に応じてご負担いただきます。
 - 信託財産留保額 換金時に、基準価額に0.1%以内（2026年7月13日現在0.03%）の率を乗じて得た額を1口あたりに換算して、換金する口数に応じてご負担いただきます。
 - 換金時手数料 ファンドを換金される際には、販売会社が独自に定める額をご負担いただきます。
- * 上記の売買手数料、購入時手数料、換金時手数料は販売会社ごとに手数料率が異なりますので、その上限額を表示することができません。

信託財産で間接的にご負担いただく費用

- 運用管理費用（信託報酬） ファンドの純資産総額に、年0.5225%（税抜年0.475%）以内（2026年7月13日現在年0.5225%（税抜年0.475%））の率を乗じて得た額①に、有価証券の貸付を行なった場合は、日々、その品貸料の44%（税抜40%）以内の額②を加算した額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
- その他の費用・手数料
 - ◆ ファンドの上場に係る費用（2026年6月25日現在）
 - ・ 新規上場料および追加上場料：新規上場時の純資産総額に対して、および追加上場時の増加額（毎年末の純資産総額について、新規上場時および新規上場した年から前年までの各年末の純資産総額のうち最大のもののからの増加額）に対して、0.00825%（税抜0.0075%）。
 - ・ 年間上場料：毎年末の純資産総額に対して、最大0.00825%（税抜0.0075%）。
 - ・ * 上記の他、新規上場に際して、55万円（税抜50万円）の上場審査料がかかります。
 - ◆ 組入の有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等。

※これらは、ファンドから支払われます。（これらの費用等は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。）

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

ご注意事項等

ファンドは、値動きのある証券等に投資します（外貨建資産に投資する場合には、その他に為替変動リスクもあります。）ので、基準価額は変動します。したがって、元金保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。ご購入（追加設定）の際には、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

＜委託会社＞ 野村アセットマネジメント株式会社【ファンドの運用の指図を行なう者】

＜受託会社＞ 三菱UFJ信託銀行株式会社【ファンドの財産の保管および管理を行なう者】

◆ 設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

☆ サポートダイヤル ☆ 0120-753104（フリーダイヤル）

＜受付時間＞ 営業日の午前9時～午後5時

☆ インターネットホームページ ☆ <https://www.nomura-am.co.jp/>